

RNC 西日本放送ラジオ番組

## CHIT CHAT RADIO 子育てCHAT ROOM

2023年7月18日 15時11分～15時40分



ホストファミリーしませんか？〜思春期の留学生と家族になる特別体験〜

— 鈴木裕美先生です。こんにちは。

こんにちは。

— 今日も暑いですね。

暑いですね。あまりの暑さに昨日、うちの娘が倒れちゃって。

— え！？

私は自分の部屋にいたんですが、私を呼ぶ声で気がついて駆けつけたら、廊下で倒れてました。驚きました。

— 熱中症ですか？

そうですね。それに最近食欲もなくて食べれてなかったんで、低血糖だったかもしれない。部屋もエアコンつけずに扇風機だけでしたし。うちの猫、娘にすぐくっついていていつも一緒にいるんですけど、そんな非常事態に倒れた娘の近くでのんきに毛づくろいしてました(笑)。私を呼びに来るくらいするといんですけどね。

— 大丈夫だったんですか？お子さんは。

救急車呼びました。ぐったりして顔面蒼白で、腕の脈もふれなかったんで。応急処置してる間に体調落ち着いてきて、搬送先の病院がなかなか見つからなかったから、家に戻ってきました。結局病院行ってないんです。

— いや、もうね。よかった！お母さんがお医者さんでと思いますよね。

— 先生だからこそですけど、室内でも熱中症に注意が必要ですからね。

本当です。びっくりしました。若い子だから食事も温度調節もできるだろうと思ってたけど、注意してあげないといけないんですね。高齢者だけじゃなく。

— いや、見てあげてください。お子さん無事だったということではとしました。今回は今日の番組テーマが「仲直り」なので、それに関連するお話を伺えればと思います。

そうですね。前回思春期に海外留学する話をしましたが、今回は留学生を家庭に受け入れるホストファミリーの話をしたと思います。

—受け入れる側？

そうですね。その時に仲違いが多いんですよね。仲違いってコミュニケーションの失敗によって起きるので、言葉や文化が違っていると仲違いすることが多いんですよね。誤解したり、誤解されたり。自分の国ではふつうのことなのに、日本では違うから怒られてしまうことがありますから、仲直りをしなきゃいけない機会ってすごいあって。

—ですよね。関係が悪いままホストファミリー続けるわけにはいきませんか。

そうですね。お母さんがメインに留学生の世話をするので、お母さんが怒る機会が多いですね。何回言っても言うこと聞かない、わざとやってる、感謝が足りない、だらしない子だと感じていらいらしちゃう。日本では一番大きいASという国際教育団体があり、中高生の交換留学をサポートしています。私はASの香川スタッフをしていまして、自分もホストファミリーをしました。お母さんが留学生に対して怒っていても、留学生の事情や気持ちを知って問題の言動の意味を理解し納得できると、すっと怒りが消えて、その子を見る目が変わります。

—あ、そういうことだったの！？

そうですね。オセロの黒がボンと白になるような感じですね。「そういう意味じゃなかったの。ごめんなさい」「こっちも悪く思ってたごめんね」みたいな仲直りを繰り返して、家族になっていくんです。

—なんだ、早く気づいてりゃ、こんなに嫌な思いをお互いにしなかったのって。

—例えば、文化の違いと一言で言っても、日本の常識、もっと言うとその家の常識みたいなところがありますよね。ホストファミリーをやるくらいだから、違いを受け入れやすいオープンな家庭でどんなことでも対応できそうです。

そうですね。私も最初にホストファミリーをやった時、自分は大丈夫と思いましたがそうでもなくて、違いを受け入れる、相手を理解するのは努力が必要なんだなって思いました。

—鈴木先生は留学経験があるから、外国人との暮らしに慣れているのかなって思いましたが。

日本はこうなんだ、留学生はこうあるべきみたいなものがあった、それに当てはまらないと相手を責めてしまいました。例えば、日本に留学したんだから日本語を一生懸命勉強するべきだ、部活を熱心にやるべきだ、積極的に地域の活動に参加するべきだって。その子と日本語の勉強しようとする新しいノート作りましたが、一ページしか使わなかったです。そういう勉強の仕方を望んでなかったんですね。

—それはどちらの国から来られたんですか？

フィンランドでした。お国柄もあってシャイだし、人と距離を置きたい、自分の時間を大切にしたい子でした。私は楽しく毎日おしゃべりしたり、いろんなところに連れて歩きたかったですけど、よく考えたら高校生男子ですもんね。

—高校生男子を迎え入れたんですね。

そうですね。高身長の高金髪白人イケメンだったので、テンション上がってしまいました(笑)。十カ月いたんですが、最初の一月はハネムーン期ですごく盛り上がり、毎日楽しくおしゃべりしたりゲームしたり。そのうち慣れて、朝起きてきて学校に行って帰ってきたら、ご飯食べると部屋で自由に過ごしてってという日常生活になりました。

—せっかく日本に来てるのにな？って言う。

そう思っちゃうんですね。でもその子はその子なりに高校生活を頑張って過ごしてたんですよ。ちんぷんかんぷんの日本語の授業を受けなきゃいけないし、慣れない部活動もやって疲れ果てて帰ってくるから、家ではゆっくり部屋で過ごしたかったんだろうなって今は思います。

—鈴木先生は今まで何人ぐらいの留学生を迎えられたんですか？

そのフィンランドの子とベトナム人ですね。あと香川ではタイ人とイタリア人の子を受け入れ、私は相談係としてボランティアしました。この夏から四年ぶりにベルギーの子が香川に来ますよ。三木高校に通学して、私の知り合いがホストファミリーで、私が相談係です。

—ベルギーですかーベルギーはどんな文化なんだろう？今一ツイメージがわかないんですけど。

はい、楽しみです。毎年、六十カ国の留学生が日本に来るんですが、私自身はベルギー人は初めてですね。留学生ネタでいうと、イスラム教の子だと一日五回祈るそうです。その度にシャワーを浴びるから5回替えるんで洗濯物が大変だと聞きました。また、足を洗面所で洗う

ので床が水浸しになるというトラブルがあるそうです。

—些細なことなんでしょうが、生活をしていく上ではわりとストレスになりますよね。バスマットがびちょびちょなだけでも夫婦喧嘩が起ころうらいですから(笑)。

その家族は話し合って、一日五回祈ることは変えられないので、そこは理解して、着替えは一日2回まで、足を洗うのを洗面所じゃなくて、お風呂場にしようってことにしていました。

—ここだったらいいよと妥協するわけですね。相手の宗教を尊重しつつ。

そうですね。他には砂漠の地域から来た子が何度注意してもトイレの水を流さなかったことがあります。水が大変貴重なその子の国では、一日一回お父さんがトイレの水を流す決まりで十七年間生きてるわけです。日本で毎回水を流すなんて、水がもったいないという罪悪感もあるでしょうし、そもそも流す習慣がなくて分かってもできない。

—ですよ。それでずっと育ってきたわけですから。逆に流すと怒られる。

そうです。その家族も揉めてたんですよ。そういう事情がわからなかったもので、何回言っても言うことを聞かないのは、馬鹿にしてんのか、それともだらしない人間なのかって。不潔な子どもとは暮らせないって。でも、しっかり話し合ってから、みんなが納得して、そのお母さんが無理して流さなくていい、私が流すからってことになりました。

—そうやって距離を近づけていくわけですね。でも全部が全部成功事例ではないですよ。

もちろんです。例えば、日本人にとつてのお弁当は愛情表現ですよ。親が作って、子どもは米一粒残さず食べて、感謝の気持ちを示すわけですよ。だけど、冷たいご飯を食べる習慣がない子もいるわけです。昼食は家族そろって家で食べるとか、温かいご飯を親が届けるとか。そうすると、どうしても冷たいご飯が食べられない。まだ言葉がうまく話せなくて、お母さん傷つくんじゃないかと思って言えない。でもお弁当箱を空っぽにして持ち帰らないといけないから、ある子は学校で捨てて、自分でパンを買って食べてたんです。それが三か月後にばれて

—家族としてはショックですよ。

お母さんがかなり怒って、許せなかったんですね。それで、その家を出るようになりました。

—そうですが、もし、そういうことなんだっていう食文化のことを知っていれば、愛情を込め

たお弁当も無駄になることもなかったでしょうね。

そうですね。ホストファミリーが長い人は、留学生に合わせてお昼ご飯はいつもパンにチーズを挟んだものとバナナ一本だけにすることもあるそうです。それで留学生も満足なんです。

―別にこれで手を抜いてると思われることはない。

そうですね。逆に留学生に喜ばれてる。でも日本人は手を抜いちゃいけない、ちゃんと作らなきゃって思っちゃいます。私もそうでしたから。もっと肩の力抜いて、気楽に受け入れられるといいんですけどね。夕飯も他人がいると一品多く作っちゃう。それ、絶対しないで、いつも通りにしてと言われます。無理なく留学生を受け入れる心得ですね。

―受け入れるホストファミリーの意識や考え、基礎知識が大事なんですね。

そうですね。だから受け入れる前は、AFSでは長年の経験に基づいたガイドブックも配布されますし、ホストファミリーのための研修会や交流会もあります。コロナ禍の影響で今はオンライン研修が多くあるので便利です。

―ホストファミリーになることによって文化の違いを学ぶ機会になると思いますが、そこにお子さんがいらっしやったら、小さいうちから文化の違いを受け入れる機会になりますよね。

そうですね。とてもいい機会になるみたいです。小さい子の方が留学生たちと自然にうまくやれるみたいで、大きくなったら留学したり、語学に興味を持つ子が多いようです。

―違う文化を受け入れながら一緒に生活をする中で一番大切なことってなんですか？

そうですね。自分の「ふつう」が必ずしも他人の「ふつう」じゃないってことを知ること、自分の期待通りに相手が行動しないからといって腹を立てないこと、悪く取らずに、とにかくコミュニケーションをあきらめないことで人間としての器が大きくなっていく気がします。

―人を受け入れたり、許すことができる器がどんどん大きくなりますよね。それもあるんだ、こういう考え方もあるよねっていう。

そうですね。私もホストファミリーをやる前は、海外生活も長いし、自分は器が広い方だと勝手に思ってたんですが、経験していかには小さいかがわかりました。留学生はこうあるべきというのを押し付けていたし、期待したようなホストファミリー生活じゃなくて、七か

月経った時にしんどくなって新しいホストファミリーに変わってもらうことにしたんですね。  
一週間前にその子に伝えたら、身長が180cm 以上もあるクールな男の子が涙をぼろぼろ流して泣いたんです。その時初めて、その子が私たちのことを好きでいてくれたんだ、居心地がいいと思ってくれてたんだと知りました。不器用な思春期男子だったんですね。

—愛情表現は人それぞれなんですね。そのホストチェンジの時に知ったわけですね。

泣いたのを見て、彼に対する気持ちがおセロの黒から一瞬で白に変わったように感じました。  
他のファミリーに移った後もたまにお昼を一緒に食べたりしましたし、帰国後もずっと連絡はとってるので、悪いイメージだけを持ってお別れしなくてよかったなと思ってます。

—本当にそうですね。

後から思うと、球技が苦手だったけどバスケット部に入って、下手なりに毎日参加してましたし、最後の試合には5分だけ出してもらえた。フィンランドでは友達は三人って胸を張って言うてましたが、香川ではたくさん友達ができたって嬉しそうでしたし、大好きなワンピースの漫画を八十冊も買って、「フィンランドでワンピースを持つてるのは自分だけだ」って嬉しそうにして、朝の読書時間にこつこつ読んでました。この子はこの子なりに成長してたんだな、いい経験をしてたんだなと思います。

—今から思うとってことですかね。ぶつかって初めてお互いがお互いをどう思ってたか分かることもあるし、それが言語や文化が違うと余計難しいけど、今はぐっと距離も近づいていて

大人になる前の、感受性が高い思春期の子が異国の地でいろんなものを吸収して成長していくのをサポートする手伝いができて、とてもよかったなと思ってます。帰国後はたまにラインで連絡とってるんですが、あの時は全然日本語できなかったのに、今は日本語でスピーディーに書けるようになって。YouTubeで勉強したって言ってました。

—最近の勉強の仕方ですね。

—それぐらい香川での生活がよくて、日本語を覚えてホストファミリーとやり取りしたいっていう思いがあるんですね。

そうですね。今は、高校も卒業して、徴兵に行つて、大学生なんですよ。入った大学が日本の大学と交換留学制度があるから、また一年間大学で日本に来たいって。彼が香川に里帰りするのを楽しみにしてるんです。



—いや、もう里帰りの時は呼んでください！

—里帰りなんて、ホストファミリーとして受け入れる喜びでもありますよね？

そうですね。それがホストファミリーの醍醐味だと思いますね。ホストファミリーを長くされている方は、世界各国に息子と娘がいて、旅行で訪れたり、結婚式に呼ばれたり、家族で遊びに来てくれたりして、本当に楽しそう。

—いいですね！鈴木先生にもイケメンの息子さんが海外にいる。

ほんとですね。フィンランドとベトナムに二人の息子がいますよ。

—今日は仲直りということで、ホストファミリーとして外国の方を迎え入れた側のお話をたっぷり聞かせていただきました。鈴木先生、夏休みですが何かお知らせはありますか？

はい、最近、おやさぼかがわのYouTubeチャンネルを開設したんですよ！

—精力的ですね。

最初に話しに出てきた倒れた娘に開設してもらって、動画編集してもらいました（笑）。ZOOMで隔月で行っている子育てセミナーをYouTubeで視聴できるようにしました。七月に「子どもに効果的に教える」というお話しをしたので、そちらをアップしています。

—YouTubeの「おやさぼかがわ」で検索したら引っかかってきますか？

はい、「おやさぼかがわ」で検索してください。また、香川県内にあるリースクールやフリースペース、親の会を紹介した動画もあります。こちらは限定公開にしているので「NPO法人親の育ちサポートかがわ」のホームページの「お問い合わせメニュー」からご連絡いただけたら、URLを差し上げます。

—はい、YouTube開設ありがとうございます。ぜひご覧になっていただけたらと思います。鈴木先生、今月もありがとうございます。

ありがとうございました。